

表 6. おもな病原性酵母の主要鑑別点

菌属または菌種	集落性状 [*]	形態	莢膜形成	仮性菌糸	厚膜胞子	発芽管形成 ¹⁾	ウレアーゼ ²⁾	フェノールオキシダーゼ ³⁾	脂質要求性
<i>Candida albicans</i> / <i>C. dubliniensis</i>	白～クリーム色, S/R	壺球形～球形	(-)	(+)	(+)	(+)	(-)	(-)	(-)
non-albicans <i>Candida</i> (<i>C. glabrata</i> を除く)	白～クリーム色, S/R	壺球形～球形	(-)	(+)	(-)	(-)	(-)	(-)	(-)
<i>C. glabrata</i>	白～クリーム色, S	壺球形～球形	(-)	(-)	(-)	(-)	(-)	(-)	(-)
<i>Cryptococcus neoformans</i> / <i>C. gatii</i>	白～クリーム色, S/M	球形～壺球形	(+)	(-)	(-)	(-)	(+)	(+)	(-)
<i>Cryptococcus</i> spp.	白～クリーム色, S/M	球形～壺球形	(+)	(-)	(-)	(-)	(+)	(-)	(-)
<i>Trichosporon</i> spp.	灰白～クリーム色, R	壺球形～円筒形	(-)	(-)	(-)	(-)	(+)	(-)	(-)
<i>Rhodotorula</i> spp.	サーモンピンク色, S	壺球形～球形	(-)	(-)	(-)	(-)	(+)	(-)	(-)
<i>Malassezia pachydermatis</i>	クリーム色, S/R	壺球形～球形	(-)	(-)	(-)	(-)	(+)	(-)	(-)
<i>Malassezia</i> spp.	クリーム色, S/R	壺球形～球形	(-)	(-)	(-)	(-)	(+)	(-)	(+)

* : SDA 培地における性状, S ; スムース集落, R ; ラフ集落, M ; ムコイド集落.

1) 小試験管に滅菌仔牛血清またはヒト血清を 0.5ml 入れ, 白金線で被検菌体を少量 (McF 濃度 0.5 程度) 加えて混和し, 35°C で 2 時間放置する.

2 時間経過後, 試験管を軽く混和し, 一滴をスライドガラスに採取してカバーガラスを被せ鏡検する.

2) *Malassezia* 属以外の酵母は、クリステンゼンの尿素培地などで検査可能。

3) 下記組成のカフェイン酸培地を作製、あるいはバードシード寒天培地を使用する。被検菌を培地に画線し、25～30℃（または室温）で、5～7日間培養する。

フェノールオキシダーゼ陽性菌は褐色集落を形成する。

培地組成：カフェイン酸 (Caffeic acid) 0.03g, コーンミール寒天粉末培地（またはブドウ糖を含まない培地）を培地 100ml 分秤量, 精製水 100ml.

4) *C. albicans*, *C. tropicalis*, *C. guilliermondii*, *C. kefyi*, *C. famata*（一部の菌株）は1%シクロヘキシミドに耐性。*C. krusei*, *C. lusitaniae*, *C. rugosa*, *C. glabrata* は感性である。